

☆自閉症のある子どもの理解のために

自閉症のある子どもの理解について、基本的な事項について、「教育支援資料」*¹「就学事務の手引き」*²に記載されています。その中から、一部参考にしてまとめました。



【自閉症とは】

自閉症とは、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする発達の障がいです。その特徴は、3歳くらいまでに現れることが多いが、小学生年代まで問題が顕在しないこともあります。中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定されています。

*参考：自閉症のことを「DSM-5 病名・用語翻訳ガイドライン」では、自閉症スペクトラム/自閉症スペクトラム障害（Autism Spectrum Disorder）としている。



①から③は、具体的には、どういうことですか？

① 他人と社会的関係の形成の困難

①に関連して現れる行動特徴としては、相手の気持ちや状況を考えず、自分の視点中心に活動しているように見えることがあります。

- 例)
- 自分の好きなことを質問し続ける。
 - 一人遊びに没頭している。
 - かかわりが一方的で、ルールに沿った遊びが難しく、仲間関係をつくったり、相手の気持ちを理解したりすることが難しい状況があります。

② 言葉の発達の遅れ

②に関連して現れる行動特徴としては、概して言語の理解や使用に発達の遅れが見られ、全く言葉を発しないこともあります。また、他者の言葉を模倣して言うこと（反響言語（エコラリア））の場合がある一方で、流暢ではあるが、普通の言葉遣いではない独特の言い方や自分の好きなことだけを一方的に質問し続けたりすることもあります。

③ 興味や関心が狭く特定のものにこだわる

③に関連して現れる行動特徴としては、こだわりがあり、「同一種類へのこだわり」や「同じことへのこだわり」があります。

* 1：「教育支援資料」とは、平成 25 年 10 月文部科学省初等中等教育局特別支援教育課「教育支援資料～障害のある子供の就学手続きと早期からの一貫した支援の充実～」のことで。

* 2：「就学事務の手引き」とは、平成 26 年 4 月福島県教育委員会「特別支援学校にかかわる就学事務の手引き～早期からの一貫した支援のために～」のことで。

初めて自閉症のある子どもたちとかがかわるときに、「③の特定のこだわり」の部分で、戸惑うことが多いようです。「教育支援資料」から、詳しく見てみましょう。



こだわりの違い

「同一種類へのこだわり」

水洗トイレや水道の蛇口とかスイッチ類へのこだわり等、気になっていることや気にしていることへのこだわりである。

「同じことへのこだわり」

同じ道、同じ場所、同じやり方、同じ物（例えば椅子の種類ではなく、青い色の椅子でないと座れないなど）へのこだわりは、状況理解ができずに生じている不安を、慣れ親しんでいる同じ物で抑えている状況であり、そのため、教師等が不用意に介入すると、子どもがパニックに至ることも少なくない。

「そのやり方ではなく、このやり方が効率的だから、〇〇しなさい。」と指導することが、必ずしも本人にとっていいとは限らない場合があります。

こだわりの現れ方

第一は、ある行動を同一のパターンで繰り返すことで（単純な動作、仕草、あるいは遊び、活動の手順等）、日常生活の様々な場面で見られることがあります。**遂行しないと気が済まないような状態**になることもあります。

第二は、環境の変化に適応できないことです。例えば、学校の日課が急に変わると、適切に対応することができず、著しく動揺することも見られ、入学や進級、転居などでも、その変化には想像を超えた苦痛を伴うことがあります。

第三は、特定の事物に興味と関心が集中することです。例えば、漢字、カレンダー、乗り物など、あるいは描画などが対象となります。そうした特定の事物への興味・関心が**何年も続き**、それに関する**多量の知識や高い技能**を驚くほど身に付ける場合があります。知的発達が遅れている場合は、感触や身体運動感覚、嗅覚などを媒介とする自己刺激に興味・関心が集中することもあります。

一言で「こだわり」と言っても、様々な背景があり、その実態把握をすることで、対応の仕方^{*3}が変わってきます。



①～③までの基本的な障がい特性に加えて、感覚知覚の過敏性や鈍感性、刺激過剰選択性、知能テストの項目に著しいアンバランスが見られることがあります。詳しくは、「教育支援資料」をご覧ください。

* 3 : 対応の仕方については、『☆自閉症のある子どもの教育における合理的配慮実践例』等をご覧ください。